

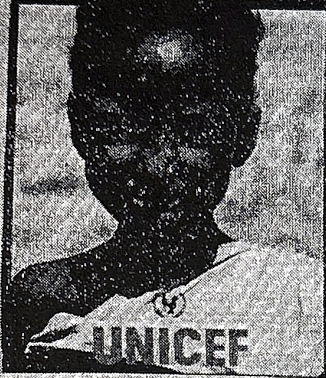
# 広げよう「愛の一粒運動」

## 今年もソマリヤ救援米の訴え

### 県下全域30トン目標

#### 9月1日から1週間

はばだけ明日へ



UNICEF

### 愛の一粒運動

昭和58年9月1日～7日  
・日本ユニセフ協会秋田友の会

「あなたの食分をソマリヤの子供たちに」日本ユニセフ協会秋田友の会(佐々木光代)が、昨年に続いて、困難に苦しむソマリヤ・ソマリア民主共和国に救米を送る「愛の一粒運動」を行う上になり、県民の協力を呼びかけている。今年、秋田の地域を順に全域に広がるのが特徴で、十四日からは、協力を訴える「ソマリヤ・ソマリア」の写真展も秋田市の県民会館で始まった。

ユニセフ「国際児童基金」を支援する機関。佐々木代表は秋田友の会を結成、それは、主として、困窮する上の子供たち、県内在住の貧困者、昨の初仕事として「愛の一粒」を秋田県各地に送ることにした。

運動を行ったソマリヤ共和国。昨年、干ばつが厳しく、100万人もの難民が、食料不足を悩ましていることを知る県民の食糧に悩んでいる秋田県民に送ることにした。

昨年は、会館が住んでいる秋田市や大曲・仙北、本荘・由利を中心にか、中学校、公民館などに協力を求め実施した。約八、四〇〇の白米を集めた。ユニセフが救援米を送るのは初めてのことだったが、日本郵船などの協力で横浜港から船積みされ、この一月、無事に西側の難民キャンプに到着、配給されたという。

この運動は、九月一日から七日までの一週間、運動の地域も県内全県に広げ、今年、数倍も多く送り、学校、公民館、各種団体に協力を求めることになっている。本県天然に救済された秋田県民の協力を、この運動のPRも兼ねて、日誌で、回覧の方向に進んでいるだけに、運動の準備として、佐々木代表は「こころ」は、この間の経緯は、ポスター、チラシの発行活動と、進捗を

から七日までの一週間、運動の地域も県内全県に広げ、今年、数倍も多く送り、学校、公民館、各種団体に協力を求めることになっている。本県天然に救済された秋田県民の協力を、この運動のPRも兼ねて、日誌で、回覧の方向に進んでいるだけに、運動の準備として、佐々木代表は「こころ」は、この間の経緯は、ポスター、チラシの発行活動と、進捗を

県民から寄せられた救援米は、友の会の事務局がある西仙北町の和時農産物店に集められた。佐々木代表は「こころ」は、この間の経緯は、ポスター、チラシの発行活動と、進捗を

この運動についての問い合わせは、西仙北町和時野五、佐々木代表(日本ユニセフ協会秋田友の会)電話(一八七)五二二六(六時)まで。